

【速報値】スノーケリングにおける国内事故者数（平成 29 年 1 月－9 月）まとめ
 (資料提供：海上保安庁)

近年、日本におけるスノーケル(シュノーケルと同義)を使用した活動の事故が増加傾向にある。海上保安庁が発表している、平成 20 年から 28 年のスノーケルを使用した事故の推移によると、事故者数に対する死亡率は、47%から 67%となっており、スクーバ・ダイビングの事故者数および死亡率と比べても高いと言える。また、同庁発表では、事故の主な原因は、スノーケル内に入った海水を排出できず、誤飲して溺水するなどの知識・技能不足や、実施中の活動に対する不注意、気象・海象の不注意等の自己の過失によるものであるとしている。

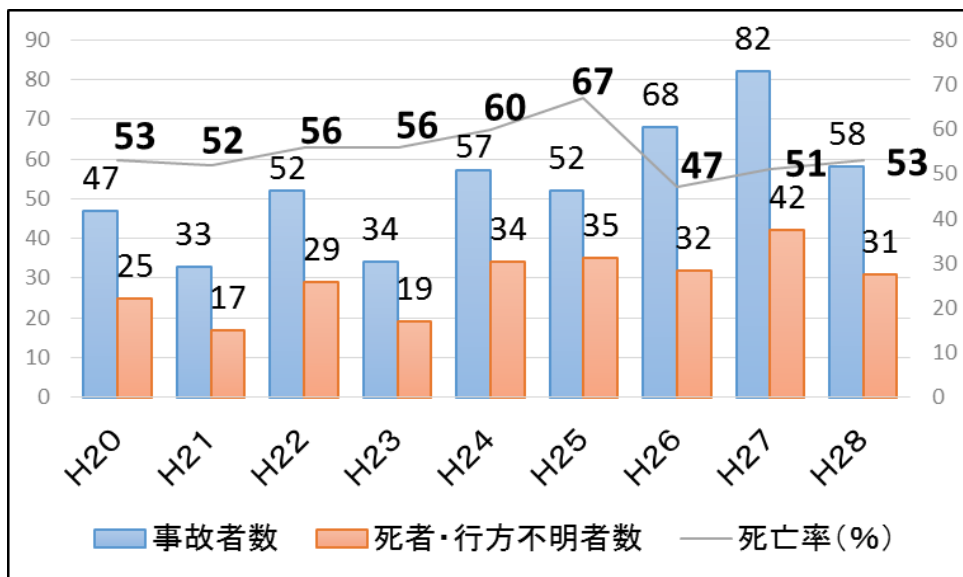


図 1 スノーケリング事故推移 (平成 20－28 年)

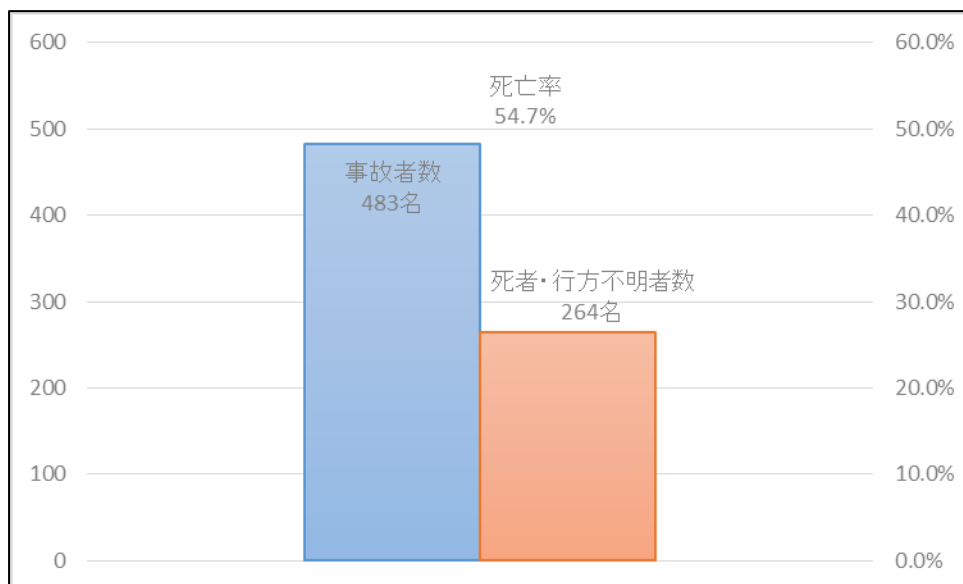


図 2 スノーケリング事故者数および死亡率 (平成 20－28 年)

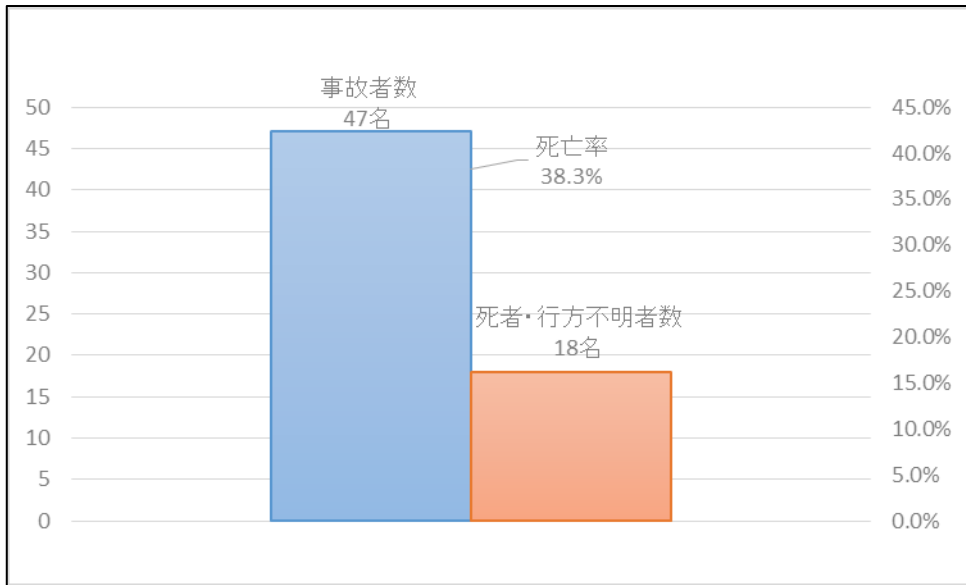


図3 スノーケリング事故者数および死者・行方不明者数（平成29年1-9月）

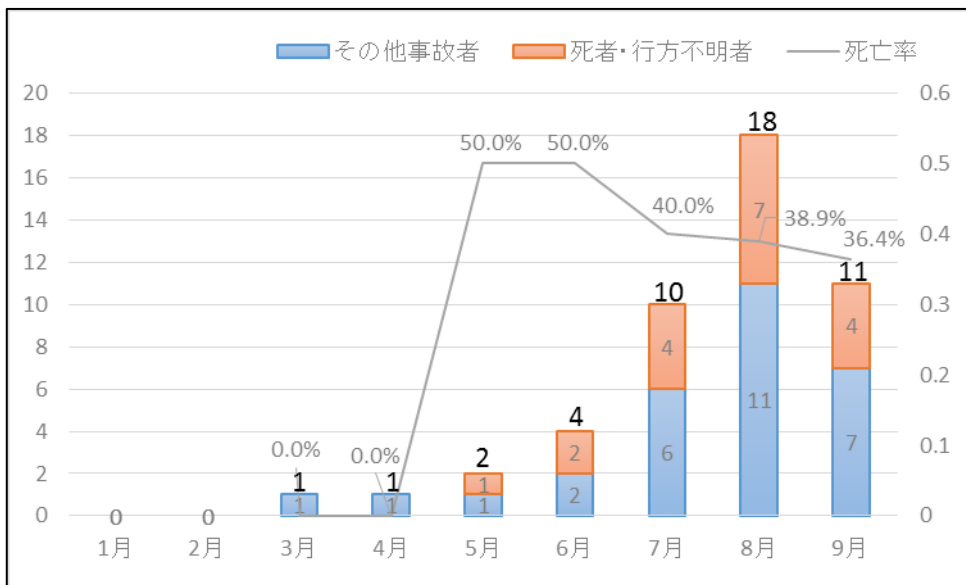


図4 【月別】スノーケリング事故者数（平成29年1-9月）

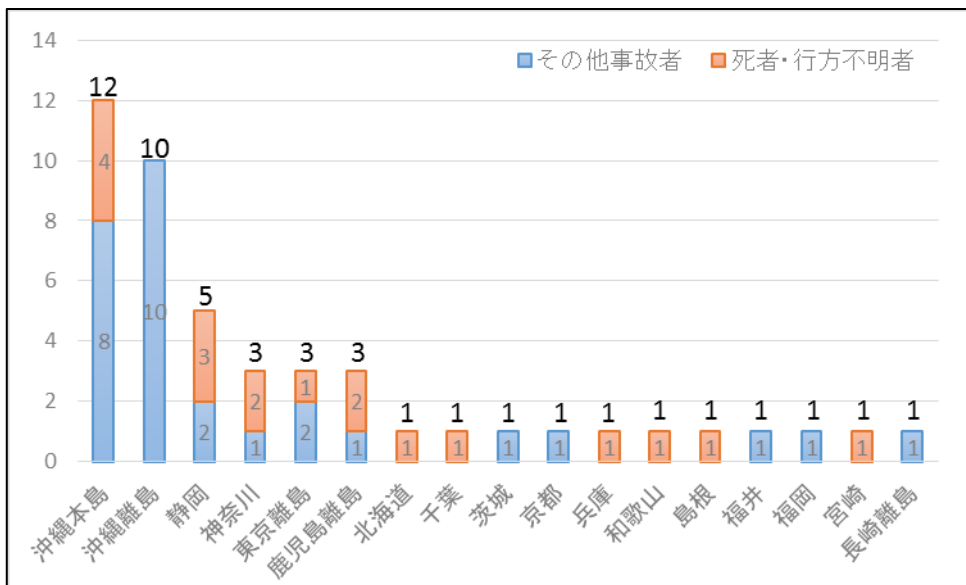


図5 【地域別】スノーケリング事故者数（平成29年1-9月）

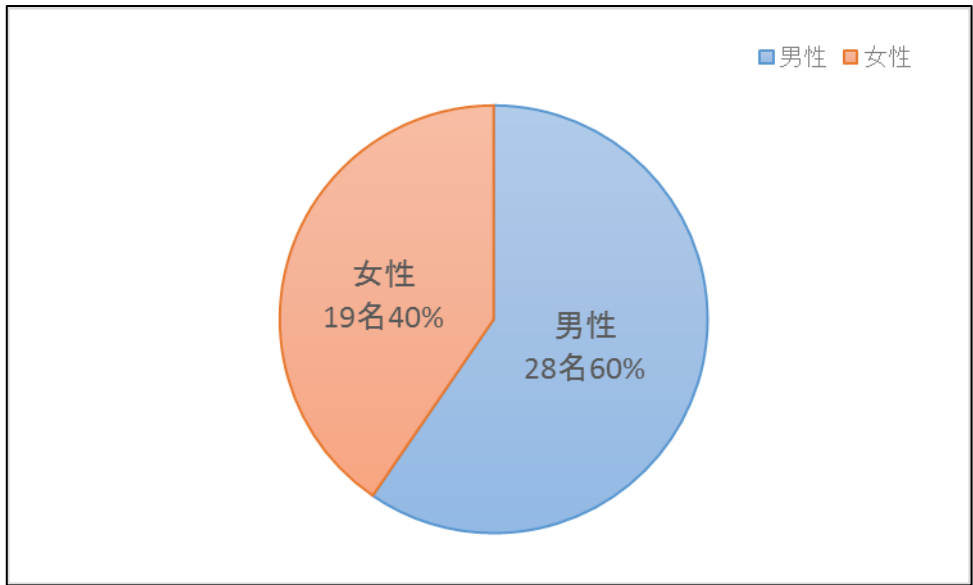


図6 【性別】スノーケリング事故者数（平成29年1-9月）

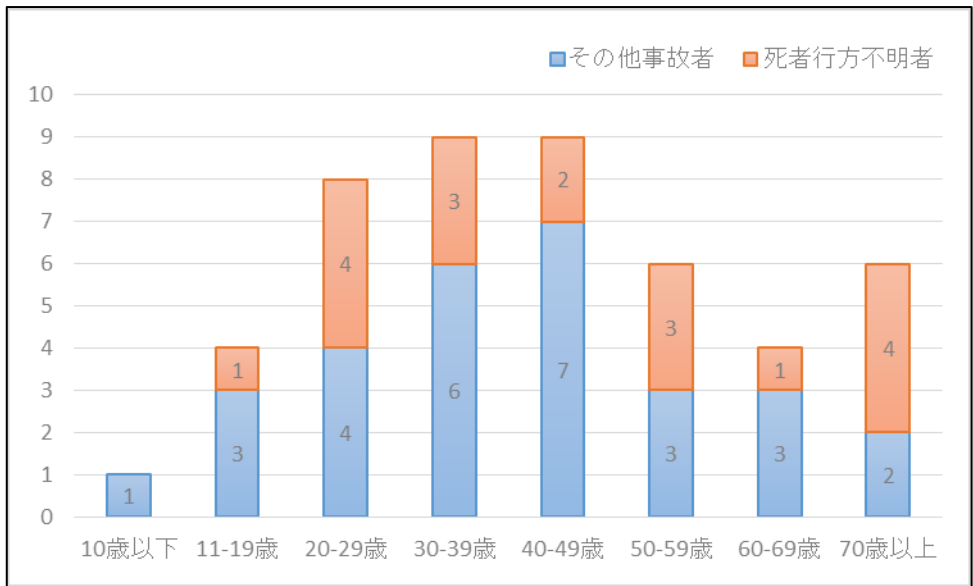


図7 【年齢別】スノーケリング事故者数（平成29年1-9月）

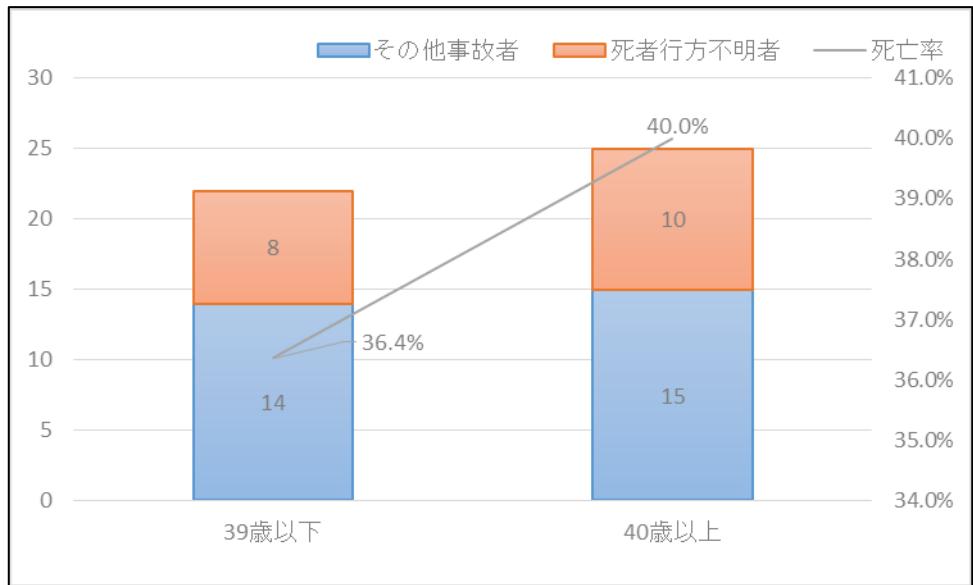


図8 【中高年齢者割合】スノーケリング事故者数（平成29年1-9月）

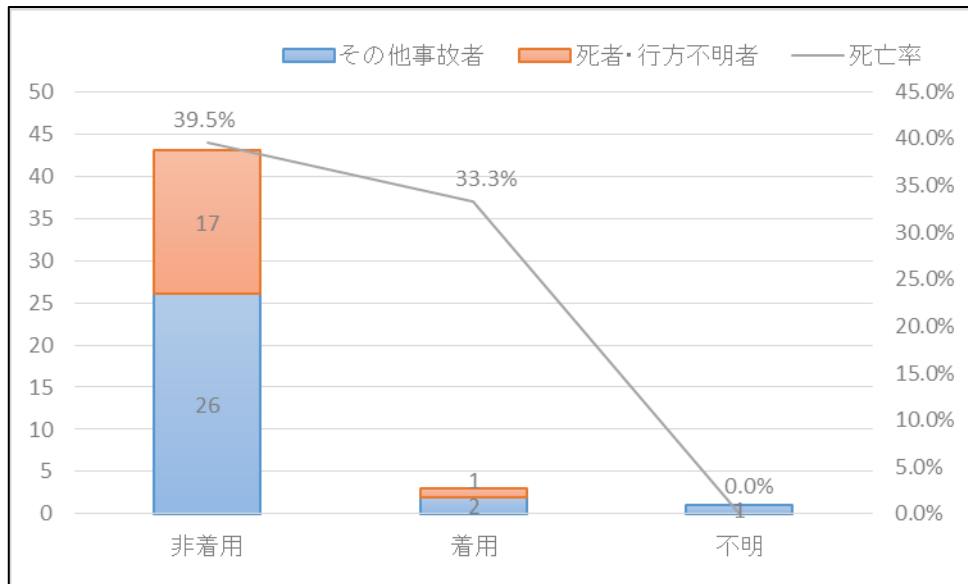


図9 【浮力体着用有無】スノーケリング事故者数（平成29年1-9月）

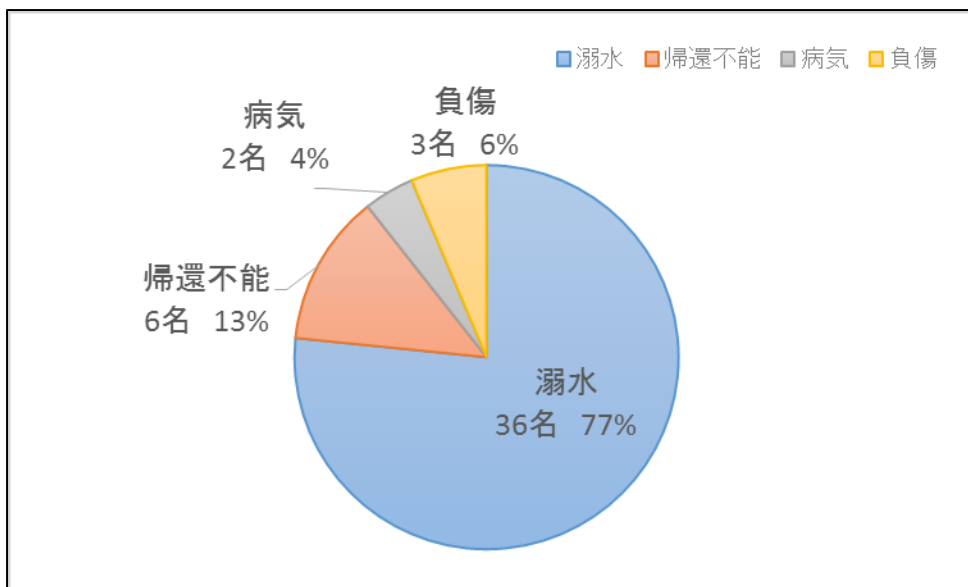


図10 【事故内容別】スノーケリング事故者数（平成29年1-9月）

以上